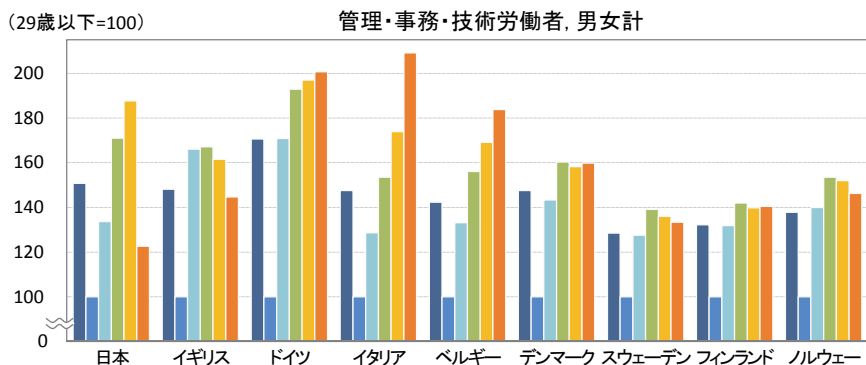
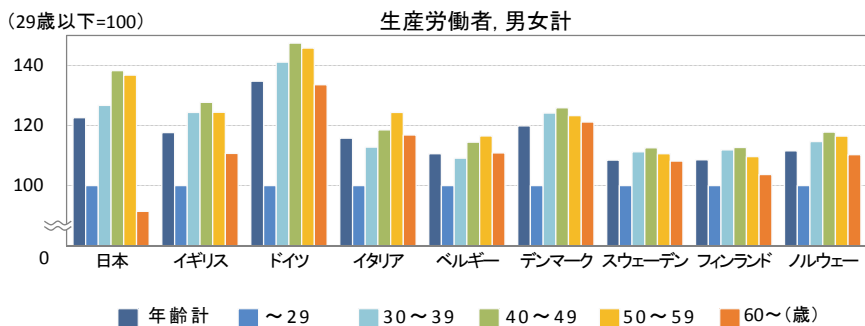


### 5-3 年齢階級別賃金格差（2010年）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第5-12表 年齢階級別賃金格差」(p.182)を参照。  
 (注) 日本は製造業、欧州は産業計。

上のグラフは、29歳以下の賃金を100としたときの年齢階級別賃金指数（格差）を示したものである。生産労働者についてみると、日本では29歳以下賃金との格差は、30～39歳層で1.3倍、40～49歳層及び50～59歳層で1.4倍となっており、60歳以上層になると0.9倍に縮小する。ドイツでは40～49歳層及び50～59歳層で格差が最大の1.5倍となっている。その他の欧州諸国の最大格差は1.1～1.3倍の範囲にある。

管理・事務・技術労働者についてみると、日本では年齢階級が高くなるにつれて格差が広がり、50～59歳層で最大の1.9倍となるが、60歳以上層になると1.2倍に縮小する。日本以外の国々における最大格差を持つ年齢層は、イタリアでは60歳以上層（2.1倍）、ドイツでは50～59歳層及び60歳以上層（2.0倍）、オランダでは50～59歳層（1.8倍）、ベルギーでは60歳以上層（1.8倍）となっている。その他の欧州諸国の最大格差は1.4～1.7倍の範囲にある。これらの数値を理解するためには、年齢階級別の労働力率「第2-11表 性別・年齢階級別人口・労働力人口・労働力率」(p. 67参照) もあわせてみる必要がある。